

令和6年度施設自己評価の結果について

公表：令和 7 年 1 月 6 日

事業所名

天竜厚生会ささえ

国から示された「放課後等デイサービスガイドライン」に基づき、事業所職員が自己評価を実施しました。
 事業所における課題点及び改善すべき点を今一度確認し、今後の当会及び当事業所の運営に活かしていきます。
 今後ともご家族様と共によりよい事業所を目指していきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力いただきますよう、お願いいたします。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	0	0	十分な訓練スペースがあるため、座席などをご本人の障害特性などを踏まえて設定している。	
	②	職員の配置数は適切である	3	0	0		
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	0	0		
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	1	2	0	帰りの会で活動の振り返りを行っている。	職員一人一人が主体的に発信や取り組みが行えるよう、定期的に振り返りを共有する機会を確保していく。
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0	0	隔月で利用者アンケートを実施し、職員会議で共有をしている。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	1	0		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	0		第三者による外部評価は受審していない。法人内内部監査において業務内容の改善に努めている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	0	0	職員会議でインスタント講習を行ったり、外部研修内容の共有時間を確保している。	
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	0		
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1	0	文字やイラスト、写真などを障害特性に合わせた形で提示するように心掛けている。	現在活用しているアセスメントツールについて、定期的に見直しを実施し、適切に情報収集が図れるようにしていく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	0	0		
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	0	0	ADLやIADLの委員会を設置し、活動内容を職員間で協議する機会を確保している。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	2	0	時間に余裕を持てる1日利用（祝日や長期休暇）にしかできないことなどを計画し、実施している。	子どもたちの主体性や選択を大切にしながら、個別支援計画を基に課題に取り組み、成長を促していく。

適切な支援の提供	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	0		
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	1	0	朝の打ち合わせの際、前日の情報共有を行っている。また、午後出勤の職員に対しても共有の時間を確保している。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	1	0	朝の打ち合わせを行い、午後出勤の職員に対しても共有の時間を確保している。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	1	0	振り返りファイルを個人ごとで作成し記録を行っている。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	3	0	0		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	3	0	0		
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	0	0		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3	0	0		
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	0	0		
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との情報共有と相互理解を努めている	3	0	0		
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	0	0		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	0		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	1	1	地域の小中学校の職場体験やボランティアを積極的に受け入れている。	コロナ以降に減少していた学校との交流について再活性化できるように、近隣の学校へと広報活動を行い交流機会の場を確保していく。
㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	3	0	0			

	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共有理解 を持っている	3	0	0		
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	3	0	0		
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉒	運営規程、支援の内容、利用者負担等につい て丁寧な説明を行っている	3	0	0		
	㉓	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	0	0		
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	0	0	3		現在は保護者会等の活動は開催して いないが、定期的に保護者へと意向 確認を行う中で、開催の企画を検討 している。
	㉕	子どもや保護者からの苦情について、対応の 体制を整備するとともに、子どもや保護者に 周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に 対応している	3	0	0		
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予 定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対 して発信している	3	0	0		
	㉗	個人情報に十分注意している	3	0	0		
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	3	0	0		
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	3	0	0		
非 常 時 等 の 対 応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者 に周知している	3	0	0		
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	3	0	0		
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	3	0	0		
	㉝	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行う かについて、組織的に決定し、子どもや保護 者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個 別支援計画に記載している	3	0	0		
	㉞	食物アレルギーのある子どもについて、医師 の指示書に基づく対応がされている	3	0	0		
	㉟	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	3	0	0		

